

小学校

視点1 外国語指導助手（ALT）と一緒に言う言語活動の在り方

言語活動におけるALTの効果的な関わり方

ALTとJTLが英語でコミュニケーションを図っている様子を子どもが見る。



ALTとJTLで
会話のモデル提示

- ①ネイティブスピーカーの英語に接する機会を確保し、子どもの興味とやる気を引き出す効果。
- ②単元のゴールの姿を子ども自身が想起しやすくする効果。

友達同士で言語活動を行う前に、ALTと他の友達が何度も英語でやり取りしている様子を子どもが見る。



ALT対子どもたち
やり取り

- ①「聞く活動」が充実する効果。
- ②英語表現に慣れ親しむことで、次の言語活動で子どもが自信をもって取り組む効果。

言語活動を通して身に付けた力を、実際にALTとやり取りすることで子どもが試す。



ALT対子ども
やり取り

- ①「ALTに通じた」という経験から、子どもがより自信をつけられる効果。
- ②ALTからの具体的なフィードバックにより、さらなる思考を促す効果。

具体的なフィードバック例はこちら

Small Talkを例に考える「話すこと〔やり取り〕」のモデル

(1)既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図る。

(2)対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。

対話の開始

Hello. /How are you ? / I'm great. /How about you ?

繰り返し

I like apples. ← Oh, you like apples.

一言感想

That's nice. /Really?/That sounds great.

確かめ

Once more, please.

さらに質問

I like apples and grapes. ← Anything else?

対話の終了

Nice talking to you. / You, too.

褒めるポイント



中学年

・【非言語的要素】を中心に、価値付け、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

・ジェスチャー ・アイコンタクト
・うなずき ・表情 ・声の調子

高学年

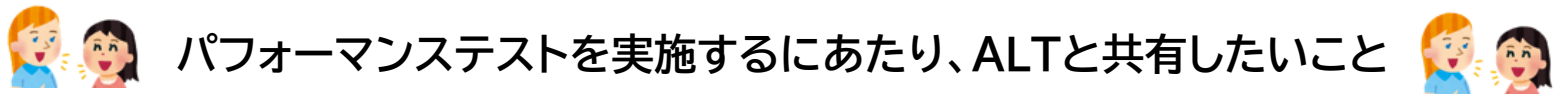
・【言語的要素】を中心に、価値付け、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

・既習表現に使用
・会話を続ける表現
・気持ちや感想を伝える一言

具体的な英語表現
例はこちら

小学校

視点1 外国語指導助手（ALT）と一緒にやるパフォーマンス評価の在り方



パフォーマンステストを実施するにあたり、ALTと共有したいこと

①単元のゴールの言語活動

- ◆言語活動の目的
(例)友達と もっと仲良くなるために
ALTのことをもっと知るために
- ◆言語活動の内容、言語材料等
(例)相手の誕生日や好きなもの、欲しいもの
(例)月/日付/ I like---./ I want ---.等
- ◆選択した領域の技能
・「話すこと[やり取り]」か「話すこと[発表]」か

ALTと事前に打合せ②
『ALTと単元のゴールの姿を共有しよう』 動画例

JTL: The goal of this unit is ---.
ALT: O.K. What kind of topics will the students learn?
JTL: The students will learn about 【colors/ subjects】.
ALT: That sounds great.

ALTと事前に打合せ③
『子どもにALTと会話のモデルを示そう』 動画例

②パフォーマンステストの評価基準

- ◆評価基準とは
・目標の実現度合いを段階別に評価するために、それぞれの段階に対応する学習状況の特徴を示したもの。実現状況を「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点ごとに評価することが求められている。

- 「十分満足できる」状況 (a)
- 「おおむね満足できる」状況 (b)
- 「努力を要する」状況 (c)



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
誕生日や好きなものについて、I like---.等を正しく用いて、言いよどむことなく考えや気持ちなどを伝え合っている。(a)	自分のことをよく知ってもらうために、相手によくわかるよう情報を加えたり、相手に質問をしたりして、自分のことをについて、考えや気持ちなどを伝え合っている。(a)	自分のことをよく知ってもらうために、相手によくわかるよう情報を加えたり、相手に質問をしたりして、自分のことをについて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。(a)
◆「言いよどむことなく」…どの程度を「言いよどまない」とするのかを共通理解を図ることが大切である。	◆「相手によくわかるよう情報を加えたり、相手に質問をしたり」…子どもがどのような英文を加えるか、事前にALTと想定することで、単元で指導するポイントがより明らかになる。	
上記に満たない場合 (c)	上記に満たない場合 (c)	上記に満たない場合 (c)

③パフォーマンステスト実施形態

- ALTと子どものやり取りをJTLが評価する。
 - ALTが評価する様子を近くでJTLが確認する。
 - 事前に評価基準を打ち合わせた上で、学級の子どものパフォーマンスを手分けして評価する。
(評価している様子を動画で撮影し、あとでJTLが評価内容を確認)
- ※事前にどの方法を採用するのかを打ち合わせる。

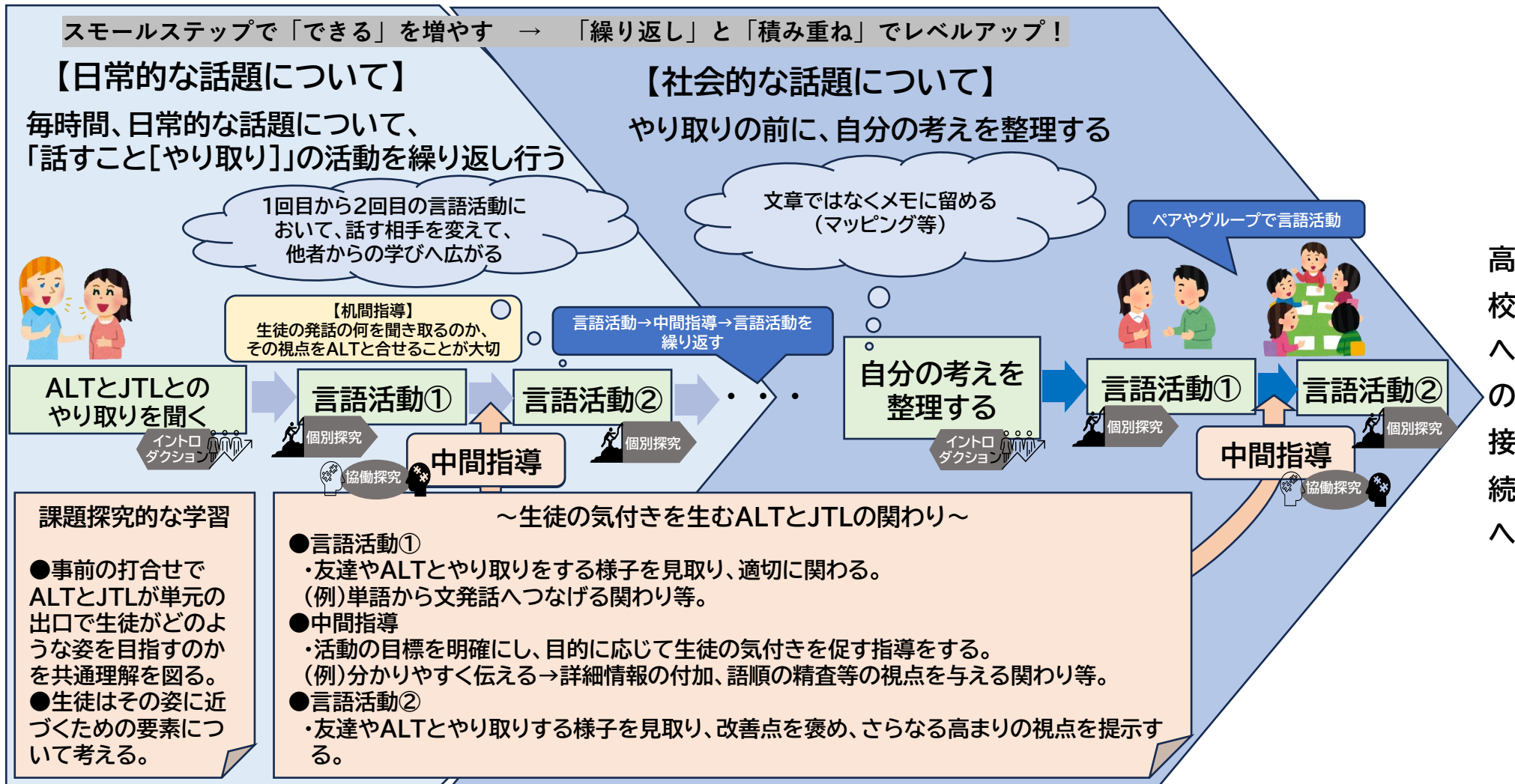
④パフォーマンステスト手順

- (例)
- ①あいさつ
 - ②ALTから子どもに質問
 - ③子どもからALTに質問
※何往復のやり取りとするのか事前に確認
 - ④ALTからフィードバック
言いよどむ子どもがいた場合に、どのように関わるのかを、予め打合わせる。

中学校

視点1 外国語指導助手（ALT）と一緒にやる言語活動の在り方

「話すこと[やり取り]」における指導のポイント



中学校 視点1 外国語指導助手（ALT）と一緒にパフォーマンス評価の在り方

ALTと一緒にパフォーマンステスト チェックリスト

ALTもJTLも
共通の見通し
をもつことが大切。

「話すこと[やり取り]」
パフォーマンス実施形態例

- ・1学年は、ALTとJTLで実施
- ・2学年は、その場で発表
した生徒同士(ペア)で
実施
- ・3学年は、その場で発表
した生徒同士(グループ)で
実施

※生徒の実態に合わせて設定

パフォーマンステスト
は言語活動の一つ。
パフォーマンステスト
の目的や場面、状況等
をALTと共有する。

ALTとJTLの
役割分担例
・知識・技能は、ALTが
中心となって評価
・その他2観点は、JTL
が中心となって評価

- 年間指導計画に、あらかじめパフォーマンス評価を位置付ける(時期・目的・方法)
- ALTとCAN-DOリスト、年間指導計画を共有する

- (単元の学習が始まる前)ALTと単元の目標を確認する

- パフォーマンス評価(「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」で評価)の前に
ALTと打合せをする

①評価基準(3観点)の確認

例)日本のイベントを知らない人に、一年間の思い出について、その内容の具体や魅力について発表する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	単元で学習した言語材料について、文の構造などを理解し、誤りのない正しい英文で発表することができる。	日本のイベントを知らない人に対して、本単元で学習した言語材料を活用し、自己の考えや気持ちを整理した上で、聞き手に配慮したより伝わりやすい工夫をして発表している。	日本のイベントを知らない人に対して、本単元で学習した言語材料を活用し、自己の考えや気持ちを整理した上で、聞き手に配慮したより伝わりやすい工夫をして発表しようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて発表することができる。	日本のイベントを知らない人に対して、本単元で学習した言語材料を活用して発表している。	日本のイベントを知らない人に対して、本単元で学習した言語材料を活用して発表しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

- ②パフォーマンステストの内容の確認と役割分担
- ③パフォーマンステスト後のフィードバックの確認

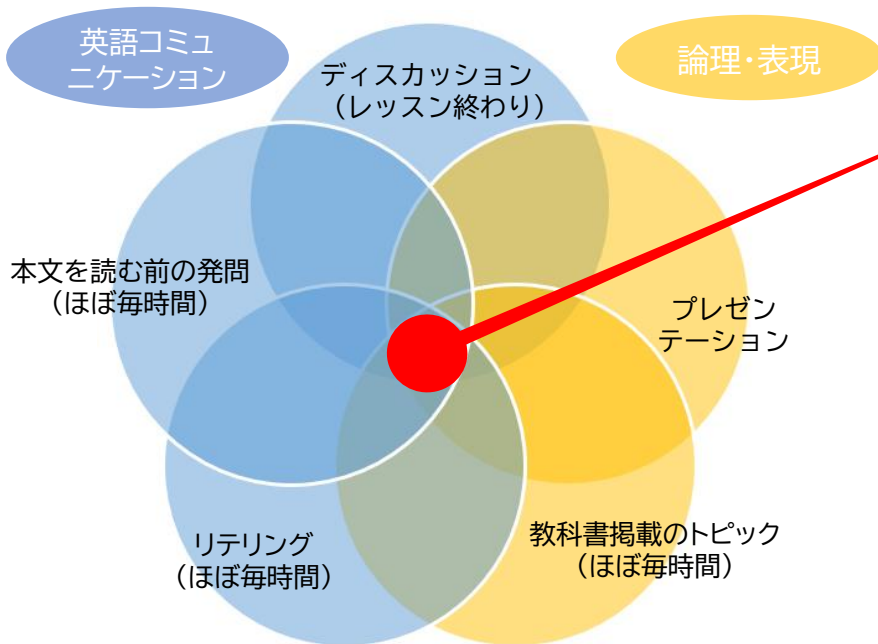
【フィードバック】

- ①できたことを認める。
- ②表現面での指導をする場合、
その場で一緒に練習したり、
確認したりする。
- ③明日からの英語の授業で意識
して取り組むとよいポイントを
アドバイスをする。

評価も指導。
評価の時間も学びの時間。
パフォーマンステスト後は、
ALTから一人一人に
フィードバックを！

高等学校

視点1 外国語指導助手（ALT）と一緒に言う言語活動の在り方



Small Talkを通じて、主体的に英語を話す態度を育成する



JTLとALTが
Small Talk



一斉指導で個別に
Small Talk



個別に
Small Talk

ALTの存在意義(Authenticity)を最大限に生かした授業の組立て

Small Talkにおける教師の役割

日常的な
話題

- ・その場で言語的な誤りを訂正し、生徒がもう一度言える機会を与える
- ・生徒からより詳しい内容を引き出す

社会的な
話題

生徒へ論理性に注意して書く場を与えた上で、書いたものを見ずに詳しく言えるようにする

- ・話す内容についてのアイデアや表現を英語で提供する
- ・英語で机間指導を行う

短期的中間指導(ALT&JTL)

…1回の授業の中での指導

長期的中間指導(JTL)

…長期的・計画的・偶発的な指導

- ・似たようなテーマを帯活動として繰り返して扱う
- ・アウトプット中心にして書く機会をつくる
- ・他科目との連携（英語コミュニケーション ↔ 論理・表現）
- ・家庭学習の指導

高等
学校

視点1 外国語指導助手（ALT）と一緒に行うパフォーマンス評価の在り方

パフォーマンステストの大前提：言語活動を中心とした授業(考査)が日頃から行われている

ALTとJTLが日頃から
生徒とのやりとりを楽しむ

即興的なやり取りを
大切にした言語活動を行う

言語活動、パフォーマンステスト、
考査の3つが関連している

評価の
種類

質的向上のための評価

日頃の授業で行う
生徒が外部試験等を受けた際は、その客観的指標の活用も考えられる

動機付けのための評価

ALTとJTLによるパフォーマンス評価

5点満点（Accuracy2点・Interaction3点）とする場合の例

【Accuracy】

- ・誤りなし→2点
- ・やりとりを阻害しない誤り→1点
- ・やりとりが成立しない→0点

【Interaction】

- ・関連する質問をALTにした→3点
- ・2文以上で答えた場合→2点
- ・ALTからの質問に答えるだけ→1点

細かすぎる
基準にしない

動機付けのための評価である
点を踏まえ・・・

- ルーブリックの素案はJTLが作成し、ALTと話し合いながら完成することも可能
- ルーブリックは教員から生徒へのメッセージ
 - 生徒に身に付けてほしい力を事前に伝え、生徒が見通しをもって学べるようにする
 - 評価の実態を踏まえ、教員は授業を工夫・改善する（指導と評価の一体化）